

## 南のひと 01

写真・文=水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を込めて撮影している。



加治エトヨさんと出会ったのは、トヨさんの孫を通してだった。孫の名前は富江ちゃん。彼女には双子の姉妹がいて名前は竹美ちゃん。そして彼女の家にはシマという白い犬がいた。

竹美ちゃんの“竹”、富江ちゃんの“富”、と犬の“シマ”で“竹富島”だと初めて聞いた時には、まるで漫画の中の話のようで、思わず声を上げて笑ってしまった。

富江ちゃんのおばあちゃんのトヨさんは可憐で素敵な人だ。

10年ほど前にトヨさんを撮影させてもらった。「帽子はかぶる？ このシャツとスカートで良いかしら？」などおしゃれに気をつけていたのが印象に残っている。

今年105歳になる彼女を撮影させてもらった。

昨年の夏頃から、トヨさんの撮影をさせてね、と富江ちゃんに声をかけていた。

とても元気で、たまに見かけるとニコニコと笑顔で手を振ってくれた。

なかなか私が撮影に行かずにいたら、夫から「とよさん転んで足を痛めて石垣島の病院に入院したらしいよ」と知らされた。びっくりした私は、次の日に娘をつれて病院へお見舞いに行った。

病室で横になっている彼女に「お見舞いにきましたよ」と声をかけた。彼女は何だか小さく見えて、娘が私の後ろに隠れた途端、少し悲しい気持ちになった。そんな私の動揺を吹き飛ばしてくれるように、彼女はコロコロと笑いながら「よくきてくれたね、ありがとうね」と言って私たちの手を握ってくれた。

色々おしゃべりをして、最後に「写真を撮らせてもらってもよいですか？」と聞くと、

「そこにあるメガネをとってちょうだい、起きませうね」と言ってベッドの背をたててくれた。

「無理しないでください、手伝いましょうか？」と言うと、「自分でできる」ときっぱり断られた。

午後の光が差し込む部屋で、トヨさんのポートレートを撮らせてもらった。

帰り際に、娘と小さくハイタッチをしながら、「偉い人になりなさい」と言っていたのが印象的だった。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。